

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490100056		
法人名	たけのこ株式会社		
事業所名	GH 佐尉郷の驛		
所在地	大分市大在中央2丁目8番11号		
自己評価作成日	平成23年2月7日	評価結果市町村受理日	平成23年5月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	厚生労働省のサーバーへ移行中につき、現在公表されておりません。
----------	---------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構		
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府宮番館1F		
訪問調査日	平成23年3月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- 1.利用者本位のケアを目指し、職員が一丸となりチームケアに取り組んでいる。一人ひとりの思いや行動に寄り添って自由に生活できるように支援している。
2. テスト制度を導入し、自己研鑽に取り組んでいる。
- 3.「専門委員会」にて職員主導で、質の向上に取り組んでいる。
- 4.地域の中で住民の一人として行事や地域交流に参加したり、一室を住民に開放している。
- 5.認知症の専門施設である事を地域に発信している。職員による劇団がある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

郊外型商業地域の一角に位置する2ユニットのホームで、同施設内にデイサービスと有料老人ホームを有し、認知症ケアの専門施設として活動しています。近隣には外出に便利なショッピングセンターや公園があり、ドライブにも出やすい環境と言えます。職員同士の協調性を基盤に、利用者一人ひとりがそれぞれの思いのままに、ゆったりとした安心感の抱ける支援に向け取り組んでおり、利用者や家族の思いを大切に共有しながら日々の介護に努めています。また、地域間の交流も積極的に取り入れながら、家庭的な雰囲気の中での暮らしを楽しむ支援が行われています。その背景には、職員間の連携やチームワーク作りの必要性を全職員が理解しており、さらに、自己研鑽に努めながら向上し続けられる形態を活用する中で、個々のスキルアップも図られています。一人ひとりの利用者の有るがままの姿(思い)を尊重し、安全な暮らしと身心の健全保持に努める姿勢が伺えます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・地域の方との日常的な挨拶や行事の参加をしており、地域の方も来援されている。 ・スタッフ会議にて理念の確認をし合い実践している。	認知症ケアの専門施設として「地域の中で一人ひとりが自分らしく輝き暮らし続けていく」を念頭に近隣の方がたの理解も得ながら、支援に取り組まれています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・地域・四季折々の行事に招待していただいたり、こちらから参加させていただき、地域の方と交流できるように努めている。	日常生活で自然に地域の方がたとのコミュニケーションが取られており、地域の一員として地域行事や季節毎の行事への参加がスムーズに行われています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・地域紙(マルコポーロ)に記載している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・参加していないのでよく分からない。 ・活かしていると思う。	会議の出席者も多く質問や意見、地域行事参加の橋渡し等活発な話し合いが持たれています、会議の記録も職員に回覧し支援の向上に取り組まれています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・取り組んでいると思う。 ・直接関わっていないから分からない。	推進会議で顔見知りとなり、情報提供や相談にも良く乗ってもらう等相互関係が築かれています。	地域包括との連携体制を積極的に取ってはいますが、より一層の関係作りに期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・施設内研修にて拘束に対する認識を高めている。・行動への関わりが拘束になっていないか常に考え、管理者へ相談している ・玄関の施錠は夜間のみで、矢も得ずした場合は記録し報告を義務付けられている。	内部研修で職員全員が周知し、一人ひとりの支援においても常に念頭に置き、気になる事は記録し報告、情報の共有を義務とし親身に寄り添うケアの取り組みが行われています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・施設内研修にて再認識し、虐待のないケアを行っている。・声がけや態度等不適切であれば、会議において話し合いを行っている。 ・虐待防止法を頭に入れケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・制度の事は学んでいるが、携わったことはない。 ・理解があいまいである。 ・話し合いは出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・関わったことがないので分からない。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・家族会をもっている。 ・来苑させた際に伺っている。	日常的に家族の訪問もあり、年1回の「家族会」も参加者が多く協力が得られています。職員と家族との関係も良好で気軽に訪問出来る雰囲気構築されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・スタッフ会議で意見等をいう機会はあるが、運営に関する意見は出た記憶がない。 ・スタッフ会議にて行っている。	月に1回のスタッフ会議と勉強会、年1回は個別に意見を聞きとる等「一人ひとりの意見に耳を傾ける」体制が整っています。又事業所で立ち上げた「劇団」が有り、講演に出かけていくなど、職員間チームワークも良い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・努めてくれていると思う。 ・努めているが、納得していない人もいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・研修の情報を常にくれ、参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・寄り添い、傾聴し気持ちを把握できるように努めている。申し送りや介護記録で情報の共有を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・ご家族が来援際にコミュニケーションを取るように努め、お互いに物事を言いやすい関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・事前に会議を行い、実行している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・その人らしい役割でその人らしい支援を追求し継続できるようにしている。一緒に食事やテレビを観たり、掃除をする時間を多くとっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・故郷訪問を行ったり、面会を促している。 ・関係が築けるように努めている。機会があれば利用者様の様子を家族の方に伝え情報のやり取りを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・ご家族が本人の友人を連れてこられる。 ・故郷の話をして頂き、ドライブで立ち寄りする。 ・努めているが、意に沿っているかは分からない。	家族の方が友達を連れ面会に見えたり、ドライブの際に自宅へ立ち寄りたりと友達や家族との継続的な交流が出来るよう、取り組まれています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・スタッフが中に入り、昔話やレクリエーションを行っている。 ・歩けない方の下膳を歩ける方をお願いしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・会いに行ったり、ご家族が来苑されり良好な関係が保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・その人らしさを常に考えより良い方法を見つけている。・会議にて検討し、最も良いケアを見出そうとしている。 ・常に傾聴し本人の思いを感じ、その人らしさを実行している。	利用者一人ひとりの生活歴を大切にし、今の気持ちや意向を把握し、その方が望む支援方法を職員で話し合い、より良い支援が出来るように取り組まれています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・日常生活の中から情報を見つけ出し、頭の中に入れていく。・把握しなければならない、知って置かなければならないという意識は高い。 ・沢山の情報が欲しい。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する方等の現状の把握に努めている	・個々の介護記録や申し送り等で様子把握に努めている。・その人の生活リズムを大切に出来るところはゆっくりと時間をかけてして頂く、心身の状態は観察を怠らないようにしている。 ・ケアプランに基づいて実践している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・ケア会議にて意見交流しニーズに合った計画書を作成している。 ・ケア会議に家族も参加していただいた。 ・作成には携わっていない。	日々の記録や家族の方からの意見を大切にし、ケア会議の中で十分に協議され、意見が反映された計画書となり、実践に繋がっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・活かしている。 ・介護記録で行えている。 ・介護記録には十分目を通し、情報を共有しようとする意識がある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・利用者様一人一人に対する対応は柔軟。 ・多機能化は、現状難しい。 ・取り組んでいると思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域の行事に招待、参加する機会がある。 ・散歩に出かけた利用者様と、毎日挨拶を交わしてくださる近所の方が多数いる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・定期的に内科の往診や歯科の往診を受けている。	毎月の診察(医師・歯科医)を受ける中で、利用者一人ひとりの健康状態の把握に努めており、職員間の共有と生活環境の整備に取り組んでいます。利用者や家族の意向を大切にしながら、支援に繋がっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・日々の観察には気を付けている。 ・小さなことでも、報告・相談をしている。 ・連絡をする意識が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・終末期のあり方について話し合いをした事はあるが、具体的なことは把握出来ていない。	職員に対して、ターミナルケアに向けた取り組みについてのアンケートを実施するなど、職員の意識や思いの把握に努めています。	終末期の看取り支援においては、施設での可能な営みについて職員と共に検討されている状況にあります。施設(家庭)の中で個々の利用者が思いのままに安心して暮らせる支援に向け、全職員間の活発な協議に期待が持たれます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・緊急時の応急手当の研修を行い対応のマニュアルは掲示している。 ・冷静に対応出来るように頭に入れている。 ・救命・応急手当の研修がある。 ・危機感を持って現場に入っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・定期的に避難訓練を行っている。 ・隣の駐車場を避難場所にさせてもらっている。 ・緊急時の連絡網がある。 ・地域の消防団の方が視察に来てくれた。	近隣は商業施設が多い事をふまえる中で、地域の消防団との連携に努めています。また、職員の夜間訓練として、電話連絡網の伝達状況の確認も行われています。防災委員を設置するなど、安全対策に積極的に取り組んでいます。	自然災害時の対策や避難方法については、今後の検討課題として着手する意向を伺いました。安心と安全な暮らしへのマニュアルの策定に期待が持たれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・マナーとモラルに注意し相手を尊敬し、常に敬う声かけをしている。「さん」呼びを行っている。 ・職員全員に高い意識がある。 ・問題のある言葉遣いや態度をお互いに指摘している。 	<p>毎月の研修の中で、先輩である利用者に対するとしての言葉遣い等、プライバシーについて話し合いが持たれ理解を深めています。職員同士のチームワークの大切さを把握しており、協調性を活かしながら日々の支援に取り組んでいます。</p>	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様に選択していただく声かけを行い、意向を伺っている。 ・利用者様のペースに合わせている。 ・出来ない場面もあるがその事について考える環境である。 		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・その人らしさを理解する為にはどうしたらよいか日常の中で常に考えている。・行動を抑制していない。・体調やリズムを考えた上で利用者様の流れに添えるようにしている。 		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・清潔感のある見た目には好感が持てるようにしている。・服は本人に決めていただいている。出来ない方には、一緒に選び好みを理解するようにしている。・定期的に訪問理美容に依頼し整髪、顔剃りを行っている。 		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆっくりした時間が流れる中、「自分で食べられる」喜びを味わってもらっている。・失礼のない下膳を心がけている。・準備、片付け、洗い物まで出来る範囲で一緒に行っている。 	<p>献立は職員が順番に担当しており、バランスや嗜好も考慮されています。また、朝食はご飯とパンを取り入れてメニューに変化を加えています。水分補給には、日本茶・紅茶・コーヒー・ココアを用意するなど、支援の中に気配りが感じられます。</p>	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・摂取量・水分量は記録し不足分は補充している。・個々に合わせた食事量を提供している。・水分が不足している方は、変更し飲みたい物を提供するようにしている。 		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が介助する場合でも必ず本人にもしていただく。 ・食後の口腔ケアが徹底している。 ・口腔ケアの大切さを理解し、徹底できるようにしている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・排泄チェックシートを活用し個々の排泄パターンを把握している。・オムツの使用を減らす為、トイレ誘導や自主的に排泄出来るように支援している。・個々を観察しサインを見逃さない。	利用者一人ひとりの排泄パターンを全職員が共有できる仕組みの中で、トイレでの排泄(自立支援)に向けて取り組んでいます。また、個々の利用者の仕草等を職員が衆知する中で、定期的・気づきによる言葉かけの支援が行われています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・日常的に運動する事を意識している。 ・便秘の原因や個々に応じた予防については、意識が低い。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・時間帯は職員の勤務時間の関係で制限はあるが、意思は尊重している。・拒否する場合は強制はしていない。・会話や温度等に配慮し、気持ち良く楽しい時間になるようにしている。	週2~3回を基本としながらも、身心の状態や好みに添えるように、連日の入浴も可能な体制の中で、一人ひとりの利用者が安全で安心・心地よく楽しむ事の出来る支援に努めています。希望があれば夜間時の対応も可能です。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・個々の居室がしっかり確保出来ており、定期的リネンの洗濯や布団を干している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・自分自身が勉強不足で知識がない。・副作用、変更の連絡は行えている。・服薬が苦痛にならない工夫をしている。・スタッフ間で情報を交換し看護職と連携がとれている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・特技や性格を理解し、その人らしさを活かした役割を提供している ・四季折々のイベント等共有な情報の元、本人らしさを発揮出来る様支援している。 ・出来る範囲での支援は行えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・近所のスーパーに買い物に出ている。 ・地域の行事に招待されている。 ・外の出で行く方には、同行・見守りを行い自由に出掛けて頂いている。	利用者の健康状態等を把握する中で、一人ひとりの意向に添える外出支援に取り組んでいます。温泉や足湯の有る近隣の大型公園へのドライブは定期的に取り入れていません。個々の自由な散歩に職員が同行する等、気分転換にも努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・家族の理解の元金銭管理をされている方もいる。 ・所持は希望や力によるが、使用時は支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・希望を聞くことはないが、希望があれば支援したい。 ・支援出来ていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・共用空間の掃除の徹底。 ・居間には季節感のある飾り付けをし時には音楽を流したり、テレビの音は大きくしないようにしている。 ・季節感が足りないように思う。	ユニット毎に、利用者がその特性を活かし易い居間作りに努めています。家具(テーブル・ソファ等)の配置も考慮され、リラックスできる空間の中で、一人ひとりがくつろげる雰囲気づくりに取り組んでいます。外庭のテーブルも普段的に活用しており、生活に潤いを加えています。	居間には、生花や利用者と職員の共同作品が飾られるなど、季節を愛でる支援に努めています。その中で、利用者がより一層、季節を味わえる暮らしについて思案されており、今後の更なる取り組みに期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・席の固定はしていない。 ・食事の時だけ、決まっているがそれ以外は、好きな所で過ごしている。 ・テーブルやソファを設置し、好きな場所に座って頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・本人が使っていた家具を持って来て頂いている。 ・畳の部屋が良い方には畳みにしている。 ・思い出の品や写真がある部屋にしている。	安全で清潔なリラックスできる環境づくりに取り組んでおり、家族の協力を得ながら、心地良く過ごせる居室作りに努めています。日常生活や外出時の写真がアルバムとして整理され、いつでも手軽に見れて自由に楽しめるよう、配慮されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・掃除・洗濯物置み・食材の下ごしらえなどの手伝いをして頂いている。 ・可能な範囲での自力での口腔ケアをして頂いている。 ・手伝いが好きな方には手伝って頂き、散歩や歌が好きな方には一人で出来るよう支援している。		